

科目名	成人・老年看護方法 I (成人急性) Adult & Gerontological Nursing I		担当教員 (研究室番号)	長谷川智之(302) 岡根利津(308) 井上千彰(308)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	急性疾患や手術による侵襲的治療を受けた患者に生じる「身体機能の障害」、「生活機能におよぼす影響」、「ボディイメージの変化」に対する看護について学ぶ。											
ディプロ マ・ ホリ ン (DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
	関連する DP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 呼吸機能障害がある患者の治療およびその看護について説明することができる。 循環機能障害がある患者の治療およびその看護について説明することができる。 脳・神経機能障害がある患者の治療およびその看護について説明することができる。 消化機能障害がある患者の治療およびその看護について説明することができる。 周術期にある患者の術後合併症および予防のための看護について説明することができる。 クリティカルな状態にある患者の生体侵襲や集中治療に伴う影響と看護、ならびに患者の家族への影響と看護について説明することができる。 											
成績評価方法 (基準)	定期試験(60%)、各回の課題レポートと小テストおよびグループワークの成果(40%)を合計して科目可否の評価とする。 定期試験は学習項目にあげた成人看護学の急性期領域を出題範囲とし、選択式の筆記試験とする。											
再試験の有無と 基準等	定期試験を受験した不合格者には再試験を実施する。再試験は筆記試験のみとする。											
教科書	ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護〔1〕～〔3〕、〔5〕(メディカ出版) 成人看護学 急性期看護 I 概論・周術期看護(南江堂)											
参考書等	適宜、授業時間中に提示する。											
学生の主体性を伸ば すための教育方法と 学生への期待	成人看護学の学習範囲は急性期領域だけでもとても広く、授業で学習する内容は限られた一部分となります。授業での学習以外の内容も積極的に学習をすすめる必要があることから、事前課題を提示します。課題に対する内容以外にも、関連する事柄や疑問が生じた内容についても調べて、十分な自己学習がされたレポートを期待します。 「演習」では、学生個々の事前学習に基づきグループワークを行い、授業中に提示する課題についてのディスカッションにより、急性期看護に必要な思考力を高めます。グループワークでは、グループあるいは履修者全体で自分の考えを積極的に述べることを期待しています。その他に、各回で提出する課題レポートおよびグループワークの資料は、「学習ノート」として1冊にまとめて、成人・老年看護学実習 I 等に活用できるようにしておくことを推奨します。											
備考	成人看護学概論を修得していないと履修できない。 成人・老年看護方法 V、VI の先修条件となっている。											
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	呼吸機能障害がある患者の看護				呼吸機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、グループワークを通して学ぶ。 ・呼吸不全の治療の特徴とその看護について学ぶ。				長谷川	講義 演習		
2回	循環機能障害がある患者の看護				循環機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、事前学習をもとにグループワークを通して学ぶ。 ・急性冠症候群の治療の特徴とその看護について学ぶ。				長谷川	講義 演習		
3回	脳・神経機能障害がある患者の看護				中枢神経機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、事前学習をもとにグループワークを通して学ぶ。 ・くも膜下出血の治療の特徴とその看護について学ぶ。				井上	講義 演習		
4回	消化機能障害がある患者の看護				消化機能の視点から健康障害の特徴と看護援助について、事前学習をもとにグループワークを通して学ぶ。 ・大腸がんの治療の特徴とその看護について学ぶ。 (学外協力者招聘予定)				岡根 学外協力 者	講義 演習		
5回	周術期看護				外科的治療を受ける患者の看護において、術後合併症予防における看護についてグループワークを通して学ぶ。 (合併症①に関する発表と解説)				岡根 他	講義 演習		
6回	周術期看護				外科的治療を受ける患者の看護において、術後合併症予防における看護についてグループワークを通して学ぶ。 (合併症②に関する発表と解説)				岡根 他	講義 演習		
7回	クリティカルケア看護				クリティカルケアを必要とする患者の特徴(生体侵襲の影響や集中治療に伴う影響など)、および患者の家族の特徴を理解し、その看護についてグループワークを通して学ぶ。 (生体侵襲の影響に関する発表と解説)				岡根	講義 演習		
8回	クリティカルケア看護				クリティカルケアを必要とする患者の特徴(生体侵襲の影響や集中治療に伴う影響など)、および患者の家族の特徴を理解し、その看護についてグループワークを通して学ぶ。 (集中治療に伴う影響に関する発表と解説)				岡根	講義 演習		

学 習 課 題

演習は、事前課題に対して調べてきたことを基にグループワークで話し合う。毎回の授業で呈示される事前課題については、授業にプリントアウトして持参する。以下に課題の概要を記載するが、毎回の授業終了時に次回の課題の詳細を提示し「WebClass」にアップロードする。

- 1回目課題（事前）：成人・老年看護学概論の資料を読み直す。呼吸器の構造と機能、呼吸不全に関する学習 【評価対象】
- 2回目課題（事前）：循環器の構造と機能、急性冠症候群についての課題レポート 【評価対象】
- 3回目課題（事前）：脳・神経の構造と機能、くも膜下出血の病態、治療、看護についての課題レポート 【評価対象】
- 4回目課題（事前）：消化器の構造と機能、大腸がん、ストーマ造設に関する課題レポート 【評価対象】
- 5・6回目課題（事前）：事前に提示されたグループワークのテーマについて調べ、グループで協力して資料を作成する。
（事後）：術後の観察に関する課題レポート 【評価対象】
- 7・8回目課題（事前）：事前に提示されたグループワークのテーマについて調べ、グループで協力して資料を作成する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護師として実務経験、特に集中治療室、手術室、急性期看護の経験がある。また、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義および演習を行う。